

## 1 市民のくらし支援について

コロナ禍に続く物価高騰に今度は、コメ不足が直撃をしており暮らしが好転する気配がありません。

(1) 秋にも、政府の追加対策が示されるのではないかとかがいます。どのような中身ですか。家計への直接支援はありますか。なければ積極的に求めませんか。

(2) 今年度新たな非課税世帯が13,000世帯との事です。近年どのような傾向でしょうか。また、特例貸付の返済状況について最新状況と傾向についてお示してください。

(3) 暮らしが苦しく、エアコンがない、電気代が払えない場合は、命に係わる状況です。生活保護世帯でエアコンがない世帯数をお示してください。

(4) 生活保護世帯で、高齢のご夫婦が、同じ高齢者施設に入るには、同一世帯とみなされ2人分の入所費は生活保護から出せないとなっています。多床室の場合は可能との国の見解もあります。市のお考えをお示してください。

## 2 アリーナより図書館を

比べるものではないと言われそうですが、市民から見ればどうでしょうか。市のお財布は一つです。限られた市民の税金を何に優先的に使っていくのか、取捨選択は必要であり、その決定権は本来、市民のみなさんにあるはずです。

アリーナ建設について流れをおさらいすると、そもそも「岡山市スポーツ施設整備方針」は、平成27年策定のままで改定はありません。方針の中で「新設」に位置付けられているのは、「屋外の多目的広場」ソフトボールやグラウンドゴルフの大規模大会を想定した施設でした。アリーナについては一言もなかったのに、経済界から何度目かになる2021年（R3）12月の提言を受けて、突如、市主導で動き出しました。当初は、シーガルズの練習・試合会場とするローコストアリーナを民設民営でという提言でしたが、3,000～5,000席を備える大規模アリーナの公設民営を求める内容に変わっています。市は、早速、385万円で基礎調査をし、ここでは建設費が約81億円、ランニングコスト年間1.5億円と試算されました。

これを受け、翌2022年（R4）12月に新たな提言が経済界から出され、経済界が運営することを念頭に「稼げるアリーナ」構想としてDX機能の導入など具体的な要望が出されました。早速、市は2,750万円かけて基本計画を策定し2024年4月に公表しました。ここでは、建設費用が145億円に増え、ランニングコストも2億円に増えています。

さらに、この5月に、さらなる経済界の要望が出され、収益性を高めたいとして、席数を増やすよう、具体的に7～8,000席にと言及されています。早速、市は、追加調査を2,000万円かけて行う補正予算を提案し、6月議会で賛成多数で可決されたところでした。これを経済界言いなりと言わずしてなんというのでしょうか。市民の意向はどこに反映されているのでしょうか。

この間に、県からは県が参画する必要性は無い、県税を投入する必要は無いと判断されています。

(1) 9月から実施するという市民へのWEBアンケートの項目は、アリーナで開催して欲しいイベント、重要視する設備、期待する効果などですが、聞いて何をどう反映するのですか。6月議会で強調された、若者の流出防止、岡山への誇りや愛着についても、聞くべきではないのですか。これらは事業後の検証にも必要な比較データとしていただきたいが合わせてお答えください。

(2) これほど市民生活が苦しい中、高い料金を払って、頻繁にアリーナに行く余裕がある市民がどれほどいるのか、人口が減りスポーツ人口が減ることを想定しているのか、お伺いします。

(3) アリーナ整備検討会議をあと3回開くとの事です。メンバー18人中女性は1人、若者は不在、市民代表も不在のようですが、理由をお示してください。

(4) そもそも県が参画しないとした理由は、何だと認識されていますか。

(5) 現計画では、メインアリーナの床面積も延べ床面積も、県のジップアリーナより小さい計画です。全国では88か所を超えるアリーナの建設ラッシュであり、地方で成功しているアリーナは、複合型施設で、規模がケタ違いです。岡山市の北長瀬エリアは岡山ドームや小規模の多目的スポーツ広場、緑地公園が単発で整備されてきた経緯があり、全体として計画性や戦略はなく、アリーナとしての都市間競争力は弱いと感じます。【資料】当該地面積も、全国の主なアリーナが2万から4万平米あるのに比べて、1.3万平米ですから圧倒的に狭く、基本計画の時点で、見送った8,000席を復活させ使い勝手の悪い窮屈な施設になれば、リピーターは期待できません。神戸市、姫路市、広島市、高松市に桁違いのゆったりとした1万席のアリーナが次々オープンする中で、岡山市は大きなリスクを背負うことになりませんか。ご所見を伺います。

(6) 公設民営方式について、手法は決定という事でしょうか。民間が資金調達するBT0方式も20者中5者が希望すると答えています。金融機関の審査が入る事で客観性は高まると考えるが、ご所見を伺います。そもそも、税金投入のないアリーナもあります。「稼げる巨大アリーナ」は、血税ではなく、民にできることは民に任せるべきではないでしょうか。11億円相当の市有地の貸与だけでも大きなプロスポーツ支援になります。お考えを伺います。

(7) 経済界が目標とする8億円に対し、現段階でいくら集まっているのですか。

(8) 中区には、20年以上前に図書館建設用の用地を購入していました。多くの市民が待ち望んでいます。文化創造都市おかやま、として世界に発信していくとの事。デジタル化が進み、人とのつながりも希薄化していく社会において、図書館がある街づくりこそ、そこに住む人々の幸福度に直結し、岡山らしい街づくりになると考えます。子どもや中高生が、涼んだり、勉強したり、デートをしたり、憩いの場もゾーニングをして、賑わい拠点となる図書館の事例は全国にあります。税金を投入するのは、稼ぐための施設ではなく、稼げなくても社会的価値が高く公共性の高い、多くの市民がのぞむ施設であるべきです。市のご見解を伺います。